

# 中国都市部一社区における高齢者の社会活動 への参加と生活満足度との関連性

WANG Jiaqian

本論文は、中国都市部における高齢者の社会活動への参加と生活満足度との関連性に明らかにすることを目的とする。

近年、中国では高齢化が進み、2020 年の国勢調査(中国では、『第七回人口普查』)によれば、中国における 60 歳以上の人口は 26,402 万人、総人口に占める割合は 18.70%(うち 65 歳以上の人口は 19,064 万人、総人口の 13.50%)である。2022 年頃に高齢化率は 14%にのぼり、高齢社会に突入すると予測されている。

本格的な高齢化社会を迎えるとともに、中国政府は充実した高齢期を実現可能な社会にしてい  
くため、1996 年、「中華人民共和国高齢者權益保護法」を公布し、第 4 章において高齢者の社会  
発展への参加を具体的に規定し、社会参加は高齢者の基本的権利であることを明記した。2012 年  
と 2015 年に「中華人民共和国高齢者權益保護法」を二度にわたり改正し、改正法では高齢者の社会  
活動の範囲と内容についてより詳しくかつ包括的に規定しており、高齢者の社会参加をよりいっ  
そう促進することが重視されている。2016 年に国务院が発表した「国家人口発展計画(2016-2030)」  
と 2017 年に発表した「国家高齢化計画発展及び高齢者養老システム(注)構築第 13 次5年計画」  
でも、それぞれ「高齢者が家族ライフサイクル、相互扶助、コミュニティ構築、奉仕活動などの活動  
に積極的に参加するよう促進する」ことが提案されている。2020 年の両会の期間中、人民代表大会  
代表劉超は中国社会の「富裕になる前に老いる」という現実状況を指摘し、また中国は「積極的な  
高齢化」の道を踏まえ、高齢者の社会参加を促進すべきだと提唱した。社会参加はさまざまな側面  
を含むべきであり、例えば、高齢者の再就職、経済活動への参加、家事労働、ボランティア活動、  
文化活動などがある。このような一連の政策により、中国における高齢者が生きがいのある高齢期  
を実現し、高齢者の社会参加の促進や社会貢献の増進が高齢化社会に対応するようになっている。

しかしながら、中国において高齢者の社会活動と生活満足度の間にどのような関連があるのかは  
まだ十分に明らかになっていない。Havighurst が 1960 年代に提唱した活動理論では、高齢者は中  
年と同じ心理的欲求をもっており、可能な限り中年期の活動を維持することで、満足な高齢期を過

ごすことができるとしている。Lemon (1972) は、高齢者の主観的 QOL を社会的相互作用 (social interaction) の活動水準と結びつけ、「活動度が大きければ大きいほど、生活満足度は高い」と述べている。また、Larson (1978) はアメリカの高齢者の幸福感に関するこれまでの研究をレビューし、社会活動と生活満足度は概して 0.1~0.3 程度の正の相関があると指摘している。そこで本研究では、中国の都市部の高齢者を対象に質的研究を実施して、その関連を検証した。

調査対象者は、中国浙江省一社区在住の健康な 60 歳以上の高齢者の 3 グループ、計 7 名で、機縁法により選出した。新型コロナ感染拡大で執筆者が帰国できないため、対象者には浙江省一社区の社区事務室に来てもらい、現地の知人の支援をうけながら、執筆者がファシリテーターとなって Zoom で事前アンケートとフォーカスグループインタビューを実施した。得られたデータを分析した結果、社会活動に参加し始めた要因、社会活動に継続参加する要因、生活満足度に影響する要因について 13 個のカテゴリーが抽出された。それらのなかで、経済状況、主観的健康観、世帯構成、ソーシャル・サポート、社会活動の種類が生活満足度に大きく影響していることが明らかになった。

これらの結果を踏まえ、今後、高齢者の生活満足度を高めるためには、社会活動への参加を促進することが重要であり、そのための環境を整備することが必要だと考える。第一に、政府や地域社会は高齢者の社会活動への参加を促進する必要があると考えられる。第二に、高齢者のみの世帯の増加に伴い、高齢者同士の支え合いや、家族や地域住民同士からのソーシャル・サポートは今後の超高齢社会では重要である。第三に、高齢者の物質的な生活水準を向上させ、所得を上げることが重要であると考えられる。第四に、積極的に社会活動に参加する雰囲気を作ることが重要と考えられる。